

	シーズ名	小児脳腫瘍(神経膠芽腫)に対するペプチドワクチン療法
	氏名・所属 等	織田 慶子

<概要>

小児の脳腫瘍のうち特に神経膠芽腫は予後が悪く、生存率が5年生存率で20%と予後不良の疾患である。

久留米大学がんワクチンセンターでは平成16年度より成人の奨励に対するペプチドワクチン療法を行ってきたが、今回その対象を6歳から18歳の小児、思春期、若年成人にひろげて行うことを検討している

<アピールポイント>

もともと膠芽腫は小児の脳腫瘍の中でも特に治療に反応が悪く、手術で取りきれない腫瘍の再発率も高く、治療に難渋する悪性腫瘍の代表的なものである。一方がんペプチドワクチンはその患者個人の特徴に合わせた患者のみに使われるテーラーメイドのワクチンであり、副作用もほとんどなく、少なくとも患者のQOL改善に十分有用である、と考えられている。

現在、がんワクチンセンターでは食道がん、大腸がん、肺がん、膵臓がんなどのいわゆるがん終末期の成人患者にワクチン療法を行うことにより、患者本人だけでなく、その周囲、特に家族のQOLの向上に寄与している。

<利用・用途・応用分野>

小児固形腫瘍の治療不応例。脳腫瘍の膠芽腫から始め、効果が明らかであれば、さらに適応疾患を他の固形腫瘍に拡大(肝がん、神経芽腫など)検討。

<関連するURL>

<http://www.med.kurume-u.ac.jp/med/cvc/>

キーワード	小児脳腫瘍、がんワクチン、テーラーメイド医療
-------	------------------------